

2024年度版 エグゼクティブ サマリー レポート

Wasabi Global Cloud Storage Index



著者 : Andrew Smith
戦略およびマーケット
インテリジェンス部門
シニアマネージャー



クラウドストレージは、ITインフラ環境にとって不可欠な要素であり続ける

2024年度版Global Cloud Storage Indexの 主な調査結果

2024年は、企業や組織がクラウドストレージの容量と予算を増加させる予定です。企業においてクラウドストレージサービスの利用がますます普及していることを示すものです。その一方で、複雑なクラウドストレージ環境を管理する上で、テクノロジーや、関連する課金・料金体系の課題に直面しています。

Wasabiは、世界中のIT意思決定者1,200人を対象に調査と分析し、本レポートを作成しました。本レポートをお読みになることで、同業他社がクラウドストレージ戦略についてどのように考えているのか、また、どのような課題に直面しているのかを知ることができます。

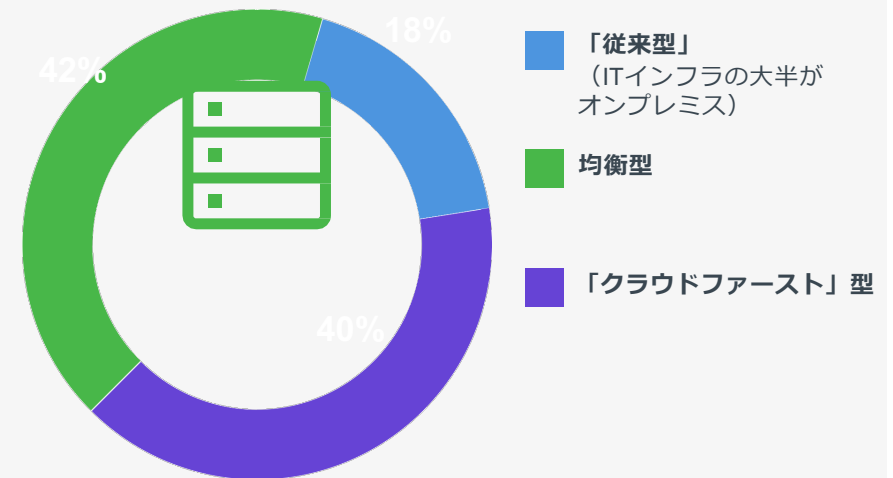


2024年度版Global Cloud Storage Indexの概要

2023年後半、Wasabiはクラウドストレージ市場の動向と傾向をより深く理解するために、Vanson Bourne社に一次調査を依頼しました。このエグゼクティブサマリーでは、調査結果の概要を示すと共に、2024年に企業や組織が知っておくべき主要なトレンドについて解説します。

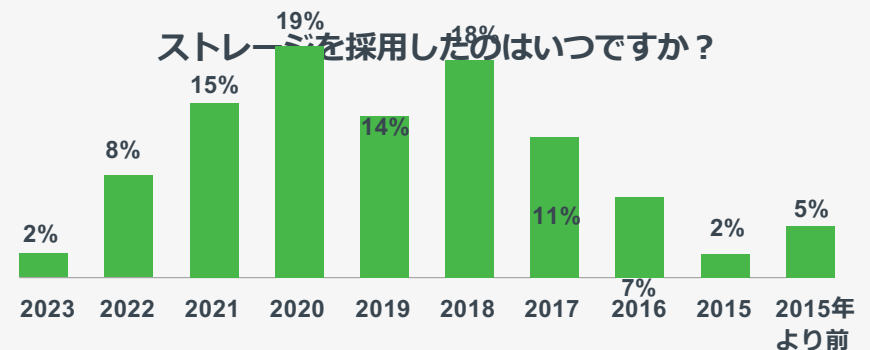
調査は、英国の調査会社であるヴァンソンボーン社 (Vanson Bourne)は、世界中のIT意思決定者1,200人を対象とした調査を実施しました。調査対象者は、クラウドストレージの購入に携わっていることを条件に選定されました。質問内容は多岐にわたり、組織のデータストレージの容量と場所、クラウドITサービスの導入に対する取り組み方、クラウドストレージサービスに対する満足度、AI/MLの導入とストレージ関連の課題に対する戦略と計画、最新の監視やデータセキュリティのワークロードにクラウドストレージがどのように利用されているかなど様々なトピックがカバーされています。

貴社が採用している「クラウド」ITサービス
ストレージを含む) の導入に対するアプローチは、
次のうちどれに当てはまりますか？



貴社がパブリッククラウドオブジェクト

ストレージを採用したのはいつですか？



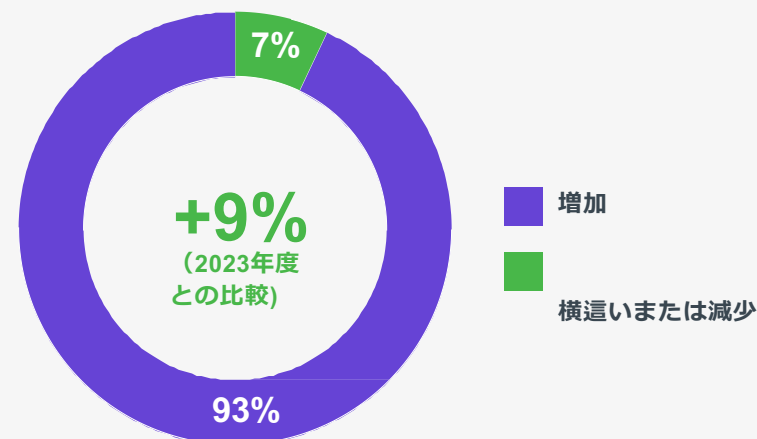
93%が2024年にクラウドストレージ容量が増加予定と回答

クラウドストレージの容量は増加の一途をたどる

クラウドストレージの容量は引き続き増加し、その速度は2023年に比べて加速すると見られています。

回答者の93%は、パブリッククラウドに保存するデータ量が2024年に増加すると予測しています。これは2023年の調査より9ポイント増加しており、クラウドストレージ市場の方向性に関するポジティブな指標となっています。なぜなら、企業や組織は、増大する容量要件を満たすためにクラウド ストレージ サービスとソリューションを組み合わせ利用し続けているからです。

今後1年間で、貴社がパブリッククラウドに保存するデータ量はどのように変化すると予想しますか？



2023年度との比較

84% 「増加」と回答

16% 「横這いまたは減少」と回答

業種に注目した集計結果：政府機関とメディア&エンターテインメントは、それぞれ99%および97%と最も高い「増加」率を示しました。

90%が2024年にクラウドストレージ予算が増加すると回答

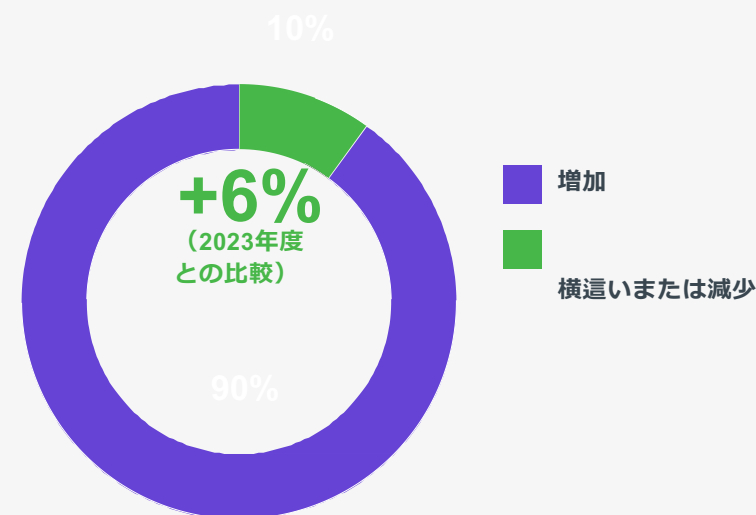
企業や組織はクラウドインフラストラクチャおよびストレージ関連のプロジェクトへの支出を優先し続ける

多くの企業や組織が、クラウドストレージソリューション関連の予算を拡大することを計画しています。これは、もう1つのポジティブな市場指標であり、かつ最新のITインフラ環境においてストレージサービスがユビキタス化していることを反映するものです。

予算が増加すると予想した回答者に、2024年度の予算増加の主な理由を尋ねました。その結果は次の通りです。

- 60%が、アプリケーション開発やワークロード移行のようなITプロジェクトがストレージ予算の増加を促す
- 52%が、デジタルトランスフォーメーションやクラウドのモダナイゼーションなどのビジネスプロジェクトがストレージ予算の増加を促す
- 47%が、新しいデータセキュリティ、バックアップ、リカバリの要件がストレージ予算の増加を促す

貴社のパブリッククラウドストレージ予算は、今後12ヶ月間でどのように変化すると予想されますか？



84% 「増加」と回答

16% 「横這いまたは減少」と回答

回答者の役職に注目した集計結果：役職別の結果を見ると、Cレベルの回答者は95%とさらに高い「増加」率を示しています。

サードパーティとの統合、データセキュリティ、そして持続継続性が、ベンダー選定におけるトップインフルエンサーに

クラウドストレージサービスを選択する際に、TCOだけでなく幅広い選択肢を評価している

クラウドストレージサービスを選択する際に考慮すべき上位3項目として、2年連続で、「サードパーティのアプリケーションやプラットフォームとの統合」、「ネイティブなデータ保護、セキュリティ、およびコンプライアンス機能」、そして「持続継続性」を挙げています。

興味深いことに、価格とTCOはトップ5にも入っていません。クラウドストレージのコストを気にしていることは確かですが、この調査結果は、購入者が低コストの容量以上のものを提供するソリューションを求めていることを示しています。

クラウドストレージサービスを選択する際に
貴社が最も重視する点はどれですか？

特定のサードパーティ製アプリケーションおよびプラットフォームとの統合（例：Veeam）

47%

ネイティブなデータ保護、セキュリティ、およびコンプライアンス機能（イミュータビリティ（不変性）、レプリケーションなど）

45%

持続継続性（プロバイダーのコミットメント、カーボンフットプリント計算ツールなど）

44%

同一プロバイダーが提供する隣接クラウドサービス

42%

パフォーマンスとスケーラビリティ

41%

企業規模別に注目した集計結果：

大企業（従業員1,000人以上）は、「ネイティブのデータ保護、セキュリティ、およびコンプライアンス機能」を最重要視しています（39%）。

クラウドストレージ市場における手数料に関する問題

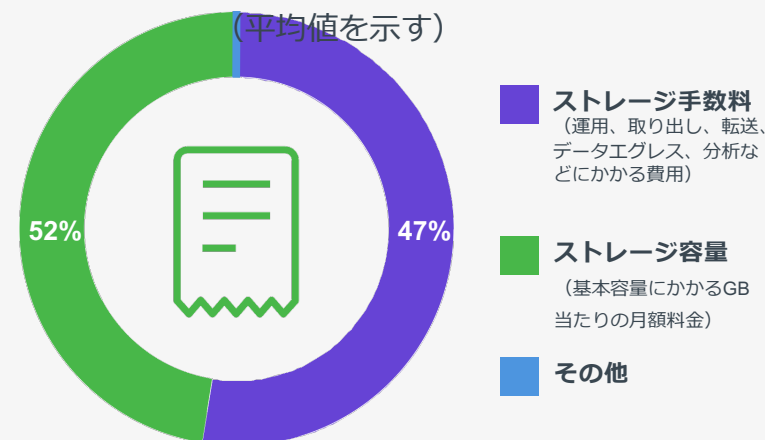
クラウドストレージの請求額のほぼ半分を、データのアクセスと取り出し、運用、移行、データエグレスに関する手数料に費やしている

支払うクラウドストレージサービス料金のうち手数料の占める割合が高いことは、依然として悩みの種となっています。このような変動料金が理由で、クラウドストレージのコストを正確に予測することが難しくなり、月ごとの請求内訳を解釈することさえ難しくなっています。

このような複雑さが、今年の調査で、半数以上（53%）が2023年におけるクラウドストレージの予算額を上回ると回答した主な理由となっています。予算超過の理由の詳細は次の通りです。

1. 42%が、予想以上のAPI手数料が発生した（put/get、read/writeなど）
2. 39%が、予想以上のデータ運用手数料が発生した（リージョン間レプリケーション、オブジェクトタギング、転送アクセラレーションなど）
3. 33%が、予想以上のデータ取り出し手数料が発生した（「コールド」ストレージへのアクセス費用など）

貴社のパブリッククラウドストレージのサブスクリプション/請求総額のうち、およそ何%が下記の分野に割り当てられていますか？



業種に注目した集計結果：

メディア&エンターテインメントとマネージドサービスプロバイダー（MSP）が支払う手数料の割合は平均よりやや多めであり、クラウドストレージ請求額の51%を手数料に充てています。

利用しているクラウドオブジェクトストレージサービスに関して高い満足度を示している

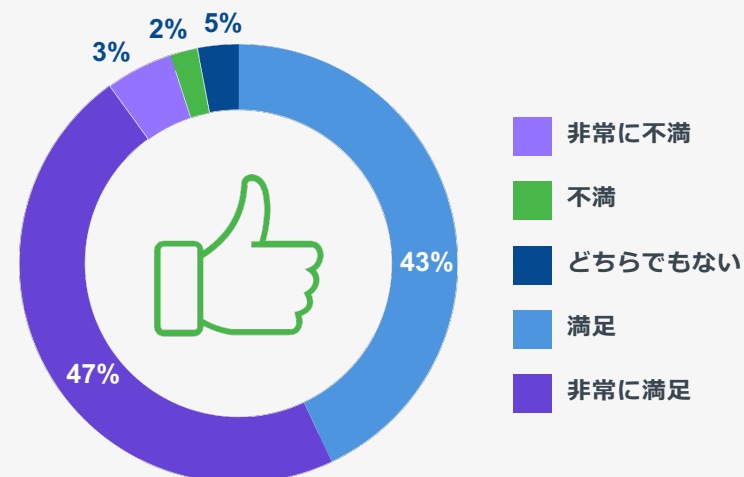
90%が、利用しているクラウドオブジェクトストレージソリューションに「満足」している

満足度90%というのは素晴らしい数字です。SaaS企業では満足度の目標値を60%~80%の範囲に設定するのが一般的ですが、この数字はその中でも高い方に位置します。

満足していない場合、その理由の第1位は「価格」でした。

Wasabiユーザーの満足度：最近、当社でWasabiを利用しているお客様の満足度を調査したところ、92%がWasabiの使用に「満足」と回答しました。満足度のリッカート尺度はどちらの調査でも同じものを使用しました。

貴社でご利用のオブジェクトストレージサービスに対する総合的な満足度をお答えください。



満足度に注目した集計結果

「満足」と回答した割合が低かった国や業種としては、次のものが挙げられます。

- 日本：80%が満足と回答
- メディア&エンターテインメント：80%が満足と回答
- 連邦政府：80%が満足と回答

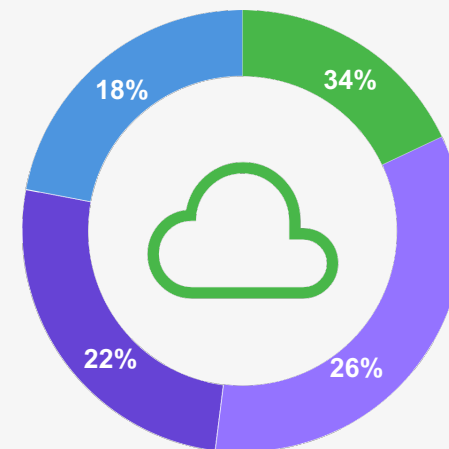
オブジェクト クラウド ストレージ 容量の利用平均82%が「アクティ ブ」データとして分類

企業や組織はオブジェクトストレージをさらに有効活用しようとしている

クラウドオブジェクトストレージの容量の約半分は、「ゴールドロックゾーン」（過度にホットでも過度にコールドでもない領域）に位置しています。オブジェクトストレージがこれほど幅広いエンタープライズアプリケーションやワークロードに対応できる理由の1つとして、この理想的な特性が挙げられます。

興味深いことに、オブジェクトストレージ容量のうち、「コールド」と分類されたものはわずか18%でした。これは、クラウドオブジェクトストレージ市場全体の方向性を示す重要な指標になると思われます。クラウドに配置されるのは、長期的で非アクティブなアーカイブデータだけではありません。企業や組織はデータを一貫してより有効に活用しようとしており、その結果、より高いパフォーマンスとアクセシビリティを求めています。

貴社でお使いのクラウドオブジェクトストレージの容量のうち、下記のカテゴリーに該当する容量の割合はどのくらいですか？



- | | |
|--|---|
| ■ 「スーパー」ホット（極めて高速なパフォーマンスが要求されるリアルタイムアプリケーションで、毎日/毎週データアクセス） | ■ ホット（毎日/毎週データアクセスがあるプライマリワークロードで、アクセシビリティに制限があることが予想されるもの） |
|--|---|

企業や組織は数百テラバイトもの ビデオ監視データを保存している

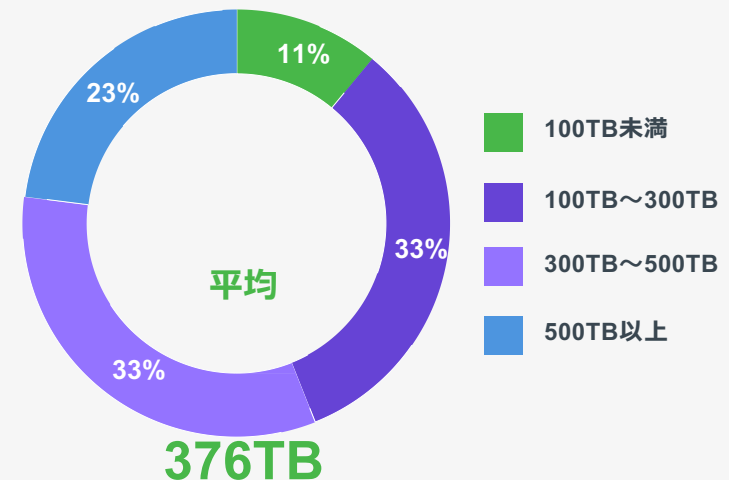
本調査の回答者は、平均で376TBの監視データを保存していると回答

さまざまな業種の企業や組織が、物理的セキュリティや施設管理戦略の一環として監視データを利用しています。

監視データは、資産の最適化、サプライチェーンや物流の監視および管理、異常検知などのビジネスプロセスにも活用されることが増えています。

監視データを活用してより多くのことを実施するようになっており、その結果、そのようなデータを保持し、データに即座にアクセスできるようにするソリューションが必要になっています。多くの企業や組織は、このニーズを満たすためにクラウドストレージサービスを利用しています。

貴社では、ビデオ監視ソリューションやワークロードのために、およそどれくらいの量のデータを保存していますか？



監視ストレージ環境に注目した集計結果

回答者に、さまざまな環境に保存されているビデオ監視データの割合を推定するよう求めたところ、次の結果が得られました。

- 監視データの65%は、平均して敷地内外にある従来のITシステムや機器に保存されている
- 監視データの35%が平均してパブリッククラウドに保存されている

回答者の99%が2024年にAI/MLアプリケーションおよびサービスの開発・導入を計画している

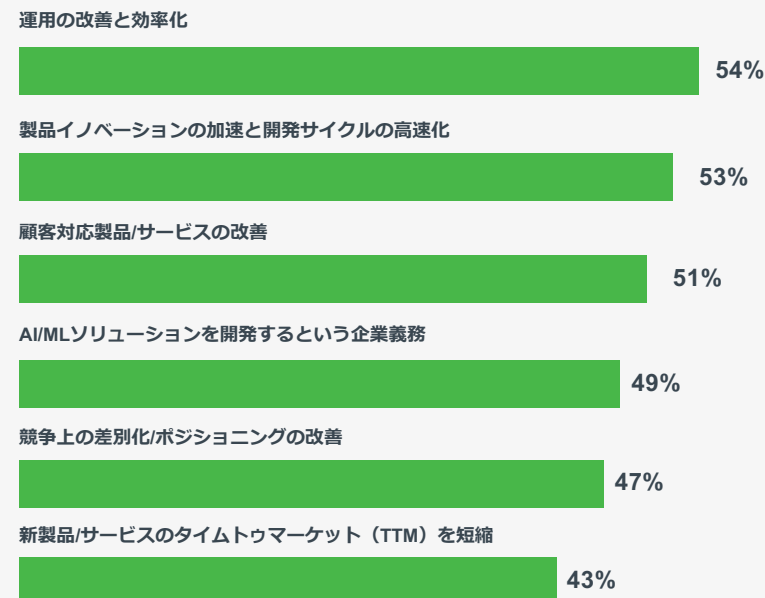
ほぼすべてがAI/MLソリューションの導入を検討しているものの、ストレージに関する新たな課題に直面している

2024年度版Cloud Storage Indexの目的の1つとして、人工知能（AI）、機械学習（ML）、アナリティクスの採用に関するデータを収集した上で、これらの技術がどのように組織に新しいインフラソリューションの評価を促しているかを明らかにすることが挙げられます。

回答者に、AI/MLワークロードの導入に関連する**クラウドストレージの懸念事項**のうちトップに位置するものは何かを尋ねたところ、次の結果が得られました。

- 49%が、クラウドやエッジなど、より広範な場所にデータを保存する要件が最重要課題の1つになると考えている
- 44%が、ハイブリッドおよびマルチクラウドストレージを含む、ストレージの移行/移動に関する新たな要件の追加や増加が最重要課題の1つになると考えている
- 43%が、新たなデータセキュリティおよびコンプライアンス要件への対応が最重要課題の1つになると考えている

AI/MLを搭載したアプリおよびサービスの採用または採用予定に影響を与えている最も大きな要因は？



AI/ML技術に注目した集計結果

- 49%が生成AIソリューションを導入済みまたは導入予定と回答
- 45%がAI/MLベースのセキュリティおよびコンプライアンスソリューションを導入済みまたは導入予定と回答
- 39%が、製品設計プロセスを改善するためにAI/MLソリューションを導入済みまたは導入予定と回答

調査方法について

調査方法

Wasabiは、独立系市場調査会社ヴァンソンボーン社（Vanson Bourne）にクラウドストレージに関する市場調査を依頼しました。本調査では、パブリッククラウドストレージの購入に少なくとも何らかの関与や責任を持つIT意思決定者1,200名（に対してアンケートを実施しました。本調査は2023年11月～12月に実施され、官民を問わず従業員100人以上の組織を対象としました。すべての調査は、適切な候補者だけに参加の機会が与えられるよう、厳密な多段階調査方式で実施されました。

ヴァンソンボーン社（Vanson Bourne）について

ヴァンソンボーン社は、テクノロジー分野の独立系の市場調査企業です。堅牢で信頼性の高いリサーチベースの分析に関して高い評価を得ています。ヴァンソンボーン社の持つ強みは、同社が採用している厳格な調査理念と、あらゆるビジネス部門と主要市場において、技術部門およびビジネス部門に携わる上級意思決定者の意見を収集する能力に基づいています。詳しくは www.vansonbourne.com をご覧ください。



Andrew Smith

戦略およびマーケット
インテリジェンス部門
シニアマネージャー

press@wasabi.com